

事務長としての 職責を果たすために



山田 豊 [やまだ・ゆたか]
老人保健施設一羊館（群馬県）
事務長

はじめに

私は1997年4月に当法人に入職し、28年が経過しました。現在は事務長職として10年目になります。入職時は介護職として入所者の生活全般の援助に携わり夜勤業務などにも従事してきました。2000年の介護保険制度施行前後は身体拘束廃止の取り組みが盛んとなり、当初「廃止なんて無理だろう」と思っていました。廃止に向けて中心的な立ち位置となり、試行錯誤しながら「身体拘束ゼロ」を達成できました。また同時期に介護支援専門員の資格を取得し、介護サービス計画書の作成や要介護認定調査なども実施することで仕事の幅が広がり、利用者、家族目線でのサービス提供が意識づけできたように思います。

通所リハビリや居宅介護支援事業所のケアマネジャーも経験させてもらいました。施設でのサービス提供と違い、居宅介護サービスは一筋縄ではいかず、在宅での生活支援を経験させてもらったことは非常に貴重な経験となりました。ものの見方、考え方も変わったと思います。その後、支援相談員となり施設を運営していく上でベッドコントロールは非常に責任あることと考えました。「ベッド稼働率」を意識し、「ベッドを埋める」重圧などもありましたが、施設長（医師）をはじめ同僚の協力・理解もあり、高い稼働率を維持することができました。これらの経験を経て事務長職に就きました。

施設紹介

群馬県といえば「強風」「暑い」「温泉」などのイメージが強いでしょうか。当施設が所在する前橋市の人口は約32万人、高齢化率は30%超となっています。施設は市の中心部から北に10kmほど離れたところにあり、

赤城山を望む静かな環境下に位置しています（夏の猛暑、冬の赤城おろしの空^{から}っ風をまともに受けますが）。

当施設は、1996年6月に医療法人一羊会上武呼吸器科内科病院の運営により開設した、独立型施設（入所定員100名、通所リハビリ定員30名）です。他に、居宅介護支援事業所を運営しています。

施設理念の「利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を!」。この3つの行動指針を念頭にサービス提供を心がけています。

事務長としてやるべきことは何か

事務長職の打診を受けたときは、この職位は全く脳裏になく「なぜ自分が?」と思いました。歴代の事務長は総務・経理といったスペシャリストであったので、事務職としての経験はなく会計経理など知識は全くない自分が打診されたことは驚きでした。

前任の事務長が急な退職をしたため十分な引き継ぎはなく、過去の書類や事務職員に聞きながら1、2年目はあつという間に過ぎた記憶です。今回執筆にあたり、「自分は何をすべきか」「強みは何か」など考え事務長としてのこれまでの取り組みを振り返ってみました。

健全運営・選ばれる施設をめざして

施設を運営する上で重要なのは老健施設の類型です。当初は加算型でした。指標点数的には在宅強化型の要件を満たしていましたが、個別リハビリ回数の問題など強化型への移行に消極的意見もありました。しかし毎月の指標点数は安定的に保持でき、リハビリ専門職のなかにも積極的な職員がいたおかげで強化型に移行することができました。その半年後には超強化型へと移行することができ、在宅復帰率も50%を超えるまでになりました。現在も支援相談員